

絶滅の危機がしのびよる

越前海岸のワカサハマギク (福井県福井市 越前海岸)

ワカサハマギクはリュウノウギクの海岸型変種で、福井県では越前海岸の崖等に生えている。主な生育地は福井県の越前海岸から若狭湾、山陰地方の海岸の岩場等である。特定される程の群生地はなく、11月に入った頃に、海岸沿いの道路を走っていると、波打ち際の岩場が白く見える。近寄ってみると、白い野菊が群れている。これがワカサハマギクである。季節風が強い日は、完全に波が打寄せると思われる苛酷な場所に生育しているのに驚かされる。

フィルム時代から、越前海岸のワカサハマギクが気になって、かれこれ20年以上も通い続けている。日本海に沈む夕日を背景にとか、初冬の荒波を背景にとか、様々なシチュエーションで撮影を挑戦し続けた。

たまたま気になって出かけた2018年の11月初旬、南方に渡るのが遅れたアサギマダラが一羽止まってい

るのを発見。近づいても逃げようとせず、かなり接近して撮影ができた。そして、ふわふわと天空に舞い上がると、海の彼方に消えていった。最後の食事をして渡って行ったのだろう。

撮影地を長年観察していると、かつては国道からでも岩場が真っ白に見えた。しかし、現在は白さが目立たない。個体数はかなり減っていると思われる。もともと生育環境が劣悪な場所。かろうじて生延びている高山植物と同じ。温暖化による夏場の苛酷なまでの高温と小雨に、絶滅の危機が忍び寄っているのは、明白なようだ。

研究者によれば、近くの人家に栽培されている家菊との交雑が進み、完全なワカサハマギクは少なくなっているという。意図しない人為的な環境も絶滅に近づく要因になっている。



岩場に群生するワカサハマギク

